



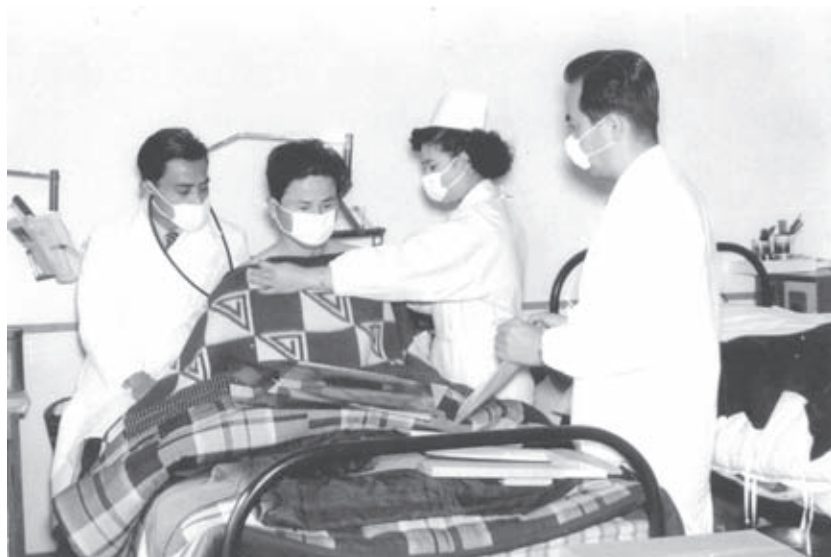
# 関東中央病院 Memories 思い出のアルバム No.5

このシリーズは、平成5年（1993年）1月から、「緑のひろば」で12回にわたって連載された記事の再掲載です。

現在、入院患者さんの平均入院日数は20日以下ですが、昔は結核療養所的な病院でしたので、入院期間が1年前後の方がたくさんいらっしゃいました。

患者さんは写真のように結核の感染予防のためにマスクをつけていました。また、教職員の患者さんが多かったからか、ベッドサイドには読書スタンドが備え付けられていたようです。

このころ、関東中央病院には、お医者さんではなかなか治らない、治療不能の「症例」が増加していました。



## ◆当時の病室風景◆



※平均入院日数20日は、平成5年当時です。

長期入院患者さんと看護婦さんのラブロマンスです。この「症例」にはさすがに医師たちも手を焼いていました。ですから、この様な症例数がどのくらいあったのかという統計はまったく残っていません。

なお、若い入院患者さんのために一言申し添えますと、現在でもこのような「症例」は極々稀に発生することがあるようです。

◆次回は平成25年7月号に掲載する予定です。